信州大学経法学部出前講座のご報告

信州大学経法学部からのご依頼により、学生自身が土地を購入することを想定した一連の授業において、土地家屋調査士の関わりや地積測量図の役割についての出前講座を実施しました。

日　時　令和4年9月12日（月）　10：40～12：50

場　所　信州大学経法学部教室及び中庭（松本キャンパス）

参加者　学生8人、先生1人、社会事業部3人、広報部1人

座学の講義内容

まず、「ご挨拶に代えて」として登記制度、土地、筆界、等の概要を説明しました。土地の単位は筆であること、所有権界と筆界の違い、登記事項証明の見方などについてパワーポイントを使って講義しました。

次に「不動産売買と土地家屋調査士の役割」についてとして、土地の表題部、法務局での調査、分筆などについて説明しました。

最後に「地積測量図について」の説明ですが、この後中庭で行う測量体験作業の説明と実際に登記されている信州大学松本キャンパスの登記事項と地積測量図について説明しました。任意座標と世界測地系の違いについての質問があり、災害が多発する今日、境界点復元能力が高い世界測地系で測量することが重要であることを伝えました。

その後、中庭に移動して2班に分かれての測量体験を実施しました。

GNSSを使った基準点の復元確認

あらかじめ設置してある基準点を復元確認し、衛星観測の高い精度を実感していただきました。

TSを使った基準点からの境界点の測設確認

座学で使用した地積測量図の各点を基準点から測設確認しました。学生に測量機械とミラーをそれぞれ1回ずつ体験していただきました。望遠鏡のクリアーな視界やミリ単位での観測に興味を示していました。

短い時間でもあり、内容がどこまで伝わったか不安な面もありますが、不動産の登記制度や地積測量図について少しでも理解していただけたら幸いです。今後、司法書士会による出前講座があり、土地の購入手続きが完了になるとのことでした。

以上、ご報告といたします。

社会事業部